

国内初処方うがい薬開発

ジャパンメディック 殺菌と抗炎症を両立

ジャパンメディック（富山市横越、前田康博社長）は、国内OTC（薬局・薬店向け）医薬品市場で初処方となるうがい薬を開発した。殺菌と抗炎症を両立した製品で、かぜの初期症状の改善が期待される。二つの成分を配合する製剤技術で特許を出願した。今月から大手ドラッグストアチェーンで販売している。同社は、自社ブランドのOTC医薬品を強化し、業容拡大を目指す。

今回市場投入した製品は、殺菌・消毒する成分のセチルピリジニウム塩化物水和物（CPC）と、口や喉の中のはれを抑える水溶性アズレン（AZ）の二つを配合した。

同社によると、これまで国内OTC市場には、いずれかを

配合したうがい薬しかなかったという。

両成分により口内の雑菌繁殖を抑え、従来のがい薬になかったとされる口臭予防効果も期待される。日常的な喉の消毒、義歯使用に伴う口内炎などのケア、風邪のひき始めまでを幅広くカバーできるという。

「AZ&CPC うがい薬」の製品名で販売している。パッケージ



「うがい薬」は口臭除去や口腔内洗浄にも、歯ブラッシングなど口腔ケア向け商品と共に並べられており、ドラッグストアで医薬品コーナー以外でも販売している。1本で約2

50回分の使用ができる。希望小売価格は税込み1080円。初年度の販売目標は30万本。既に大手メーカーから相手先ブランドによる生産（OEM）の依頼もある。同社は、薬価改定によって医療用医薬品市場の収益環境が厳しさを増すとみており、独自性の高い新製品を投入してOTC医薬品分野を強化する考えだ。

「うがい薬」

ジャパンメディックが開発した「AZ&CPC